

## 第2回 文化会館整備検討委員会（視察概要）

日時：平成23年6月29日（水）

視察：14時～15時50分

（説明：15時～15時50分）

場所：酒田市民会館 練習室1

〔出席者〕	樋渡美智子委員 佐藤進委員 奥井厚委員 山田登委員 前田勝委員 菅原一浩委員 小林功委員 渡部巖委員 大久保紀子委員 柿崎泰裕委員 三浦譲委員 村山智昭委員 酒田市：文化スポーツ振興課 文化主幹、芸術文化係主任 鶴岡市：社会教育課長 文化主幹 芸術文化主査 芸術文化係長
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1. 館内の視察 大ホール・楽屋・リハーサル室・練習室・トラックヤード等
2. 施設の説明 酒田市から資料N○2により、概要説明

### 【質疑応答概要】

- 委員：総事業費65億円には土地の取得費も含まれているのか。  
酒田市：含まれている。
- 委員：工事発注は一括か、分離発注か。音響や照明工事なども分離か。  
酒田市：分離発注である。一番最後が南側の駐車場の整備だった。
- 委員：業務委託料の中にホールスタッフと事務員の人件費分も入っているのか。  
酒田市：委託料に入っている。
- 委員：駐車場のこと以外で、利用者からの問題点があれば聞きたい。  
酒田市：大ホールの利用率が高く、なかなか予約が取れないと言われている。また1年前からしか予約ができない点もよく言われる。
- 委員：ホールの照明音響、また事業パンフレットの評判はどうか。  
酒田市：音響、照明では、現状では足りないという人もいるが、持ち込みでやることはできる。事業パンフレットについては特別な反応はないようだ。
- 委員：リハーサル室が一つしかないが、貸し館で練習に使わせていることの問題点はあるか。また、オーケストラがステージからリハーサル室に行くまで、演奏者の動線的な使い勝手はどうか。  
酒田市：オーケストラなどはリハーサル室まで行かず、ホワイエ、また全館使ってリハーサルすることもある。楽器を持つての移動が厳しいとの声もある。

- 委員：客席椅子は互い違いに配置されているが、一階に実際に座ってみると（前の）頭が若干気になった。どのくらいの勾配なのか。
- 酒田市：具体的な勾配の資料は手元に無いが、現実としては敷地の制約から来ていると考えている。
- 委員：ホワイエの柱は構造上のものか、デザイン上のものか。
- 酒田市：デザイン上のことも考えているが、強度設計上、必要と思われる。
- 委員：管理運営体制、自主事業の組織体制は重要と思う。自主企画を50人体制でやっているわけだが、その組織の課題、問題点は何か。
- 酒田市：自主事業のことで言うと、ボランティアという点。市民の声も反映しやすく、市民に直結した事業展開ができる一方で、ボランティアは毎年募集であり、メンバーが常に変わり得ることなどから、長期的かつ安定的な事業運営という面において不安な要素はある。
- 委員：指定管理者でマイナス面と思われることは何か。
- 酒田市：指定管理にすることで効率的な運営による経費削減などが期待される一方で、指定管理者が変わった際に、基本的な方針が変わってしまうなど、事業の継続性で難しい面がある、ということを知っている。
- 委員：利用回数は、プロの方の公演も、市民の公演も含めた回数か。鶴岡の文化会館は、プロよりも市民の利用が多いが、こちらではどうか。
- 酒田市：含めた回数である。市民の方の利用が多い。このくらいの（人口規模の）都市であれば、市民利用が主であるという考え方があるべき姿かと思う。市民のためのホールという線は外せない。

以 上

## 第2回 文化会館整備検討委員会議事録（概要）

日時：平成23年6月29日（水）

16時45分～17時15分

場所：アートフォーラム大会議室

〔出席者〕 樋渡美智子委員 佐藤進委員 山田登委員 前田勝委員 菅原一浩委員  
小林功委員 渡部巖委員 大久保紀子委員 柿崎泰裕委員 齋藤瑞穂委員  
三浦譲委員 村山智昭委員

社会教育課長 文化主幹 芸術文化主査 芸術文化係長

### 1. 開 会（芸文主査）

#### 2. ①視察のまとめ

委員長：本日、酒田市の希望ホールを視察した感想等を出していただきたい。

委員：希望ホールは、日本で一番素晴らしいホールを作ろうという意気込みで作られたという話だったが、音響なども非常に考えて作られており、バックヤードもリハーサル室の動線なども非常に素晴らしいという印象を強く受けた。鶴岡の場合は多目的ホールになるのだろうが、予算や敷地面積もあるので、大きさなのか、音響なのか、コンベンションにも使えるように本当に幅広くするのか、コンセプトをきちんと作り、どこに主眼を置くのか決めないと何でも放り込むということは難しいということが良く分かった。

委員：希望ホールは素晴らしいと感じたが、ただひとつ予算の面でどうなのかということが心配。文化は営利ではないということを根底に置かないと、簡単に終わってしまっはのちのちのためにはならない。希望ホールはできるまで10年の時間がかかっているが、鶴岡は平成28年には利用することになっている。ずいぶん期間が短くて、本当に大丈夫なのかと心配になった。

委員長：市民のため、人の育成のため、商業主義ではなく、文化振興のためとおっしゃっておられたが、それと同時に完成までの期間が短いのではないかという話があった。合併特例債を活用してということになると、期間が制約されているということも理解をしなければならない。そのためには一生懸命情報を集めて早くいいものを作るようにするということになると思う。

委員：最初に思ったことは、ホワイエが狭く休憩時間に人が集まったときに非常に混雑す

るということ。しかしステージの広さ、客席のゆとりという優先順位で考えていったら、最後にホワイエが少し狭くなってしまったということだと思う。客席の確保を考えた場合にあの敷地面積ではしょうがないが、本来であれば二階席はないほうがよいし、二階の客席の音響空間も音が回るといって苦情が来ている。二階の傾斜の角度も、年配の人であるほど階段も高くて怖いと感じる。演奏者の立場でいうと、トラックヤードは良かったが、リハーサルの場所とステージの動線など使い勝手が一番気になるホールである。

それから私の意見として、演奏者を大事にすることが第一で、ホールの中に飲食的なスペースというのは二の次三の次であろうと思う。興行的なことでは、希望ホールは1200席できたので来る演目が増えてオペラが入ったとのことだったが、一番使っているのは市民で、市民が文化のレベルをあげる、あるいは活用できるといのが譲れない部分である。

委員：二年位前、平均年齢60歳くらいの団体が使ったとき、今言われていたように上のほう傾斜がきつくて怖いという話があった。

委員：日本一のホールを目指して作ったということだけあってホールは素晴らしい。しかし鶴岡も同じように日本一素晴らしいものを作るという意気込みで作る必要はなく、着眼点をどこに置くかが重要になると思う。係の方の説明では、二階の部分を使わず一階だけで勝負するなど、使わない部分が出てきており、また照明や空調管理にもかなりお金がかかっているとのこと。これからはランニングコストを削減することも必要。飲食のことは二の次で、市民の文化水準をあげるということを重要視して作ったほうがよい。

委員：希望ホールは柿落として使ったが、駐車場が狭い、動線が使いづらいということが当時から言われていた。文化ホールは教育の一環なので、効率性だけで考えるべきではないが、財政面でかなり持ち出しがあるということだったので、これが席数によるものか構造上によるものか、今後しっかりと比較をしながら組み立てていったほうがよい。

委員：鶴岡市も合併して一番大きな市になったので、せっかく作るのであれば森林文化都市を目指して森林を豊富に使った大きな会場を作ってもよいのではないかと。希望ホールを作ったときには節電対策があまり考えられていなかったのではないかと。それを徹底的におこなってランニングコストを減らすことが今の建築方法でなんとかなるのではないかと。ホールを小さく使う場合と大きく使う場合があると思うので、ワンフロアのホールを前と後ろで仕切るような形でいかようにも使えるようにできないか。鶴岡市は文化水準が高いところであるのに、全国的なものと呼ばれないのは悲しい。

委員：市民が表現する立場に立ったときには最高の音響ということになるだろうが、子ども達が文化レベルをあげるため一流のものを見る機会が、仙台や山形に行かないのではないのだろうかと思う。鶴岡に席数1500は必要ないという意見もあるかもしれないが、コストをうまく抑えながら席数を確保する方法はないのか。

委員：新しい会館のコンセプトをどうするのか、しっかりと決めていかないといけない。会館全体を眺めてみて、出演する方、もちろん観客にも配慮した、大変多くの心遣いのある会館だと感じたが、一億円の支出に対して、非常に収入が少ない。これは他の会館の状況も同様であり、教育、文化振興という考え方を持たないといけないことである。どういう規模にするかもあるがお金がかかることは間違いないことなので、どれだけランニングコストを抑えられる施設をみんなで設計に盛り込んでいくかが大変に重要なことではないか。後は経営方式について、今後、市の考え方を聞きながら検討しどうするのかということ議論していかなければならない。

委員：鶴岡の場合は合併特例債を利用するわけであり、もう後戻りできない。ナンバーワンより、今は鶴岡という市にあったオンリーワンということで、鶴岡のよさを生かせるような方法を考えていったほうがいい。運営面もどうしたらうまく機能していくのか、使い勝手よく工夫しながら考えていけたらと思う。

委員長：一番とは言わないけれど鶴岡市民が有効に活用できる、鶴岡市のための会館ということでもとまっていけるのではないかと思うが、さまざまな面で日進月歩している、そういった情報を集めながら省エネについても充分考え、文化会館を作りたいということで今日はまとめた。

②その他について、事務局から説明を。

芸文主査：資料ナンバー3と4の資料を準備した。ナンバー3は何席程度あれば興行が成り立つかという質問、それからかつて東北電力や新聞社等が公演を開催した、もしくは共催等でおこなった催事関係がないかという、それに対するわかる範囲での回答を準備した。何席あれば興行が成り立つのかということについては、二枚目に「自主事業」として過去の事業を参考に作成した、ミュージカル、ピアノリサイタル、オペラについての収支を掲載した。入場数、入場料については、地域性等を考慮し設定したもの。ミュージカルとピアノはなんとか成り立つが、オペラは340万程度不足している。ではできないのかということそうではなく、市の自主事業であればたとえば340万市が負担する、またはなんらかの共催を募るなどが可能であれば、できないわけではないと思う。座席数が何席かということもあるが、必ずしもそれだけではなく、催物の内容と状況、地域性、観客の入り方、チケットの値段、主催共催、そういったものが合わさって催しが成り立っているのも、一概に座席数が何席あるから何ができるというものではないということイメージができると思う。

それから一回目の整備検討委員会の会議録について、この場で問題ないご返事をいただければ、今日の二回目の資料と、第一回目の会議録両方をホームページに掲載したい。

委員長 : 第一回目の会議の概要、これでよければホームページに掲載するということが、よろしいか。

委員一同 : 了承

芸文主査 : 次回の日程は7月25日月曜日午後一時半でいかがか。それから芸術文化団体と学校関係者（吹奏楽、合唱、演劇）を対象に7月11日と19日に利用者懇談会を予定しているのでご承知おきいただきたい。

委員一同 : 了承

委員長 : これで終了とする。